

地獄の後は天国や

「これが、茶くみの仕事か。」

先輩は、そのつらさがわかっている様で、ニタニタしてる。

なる程、腹に飯が入り、胃に血が寄って、力がますます出ない。

足が、ガクガクする。

一步、一步、歩くごとに、

右、左のかたが、ギッチリ、ゴッチリと鳴っている様だ。僕は、顔をしかめて、動かす。

まるで、油が不足した金属人形の様だ。

体をうねらせて、ガニまた。

どっしん、どんどんと、

片足、片足が地面につくごとに、足全体が痛み、「ううっ、ううっ」と

いつも、おおげさな僕は、この時も、うなり声を出して行く。

誰にも聞かれんかと、まわりをキョロキョロ。

部屋に戻ると、すぐ、

ごろごろしている皆のところに、やかんを置き、そのまま、僕も、体を横にして、

九時まで休む。